グリニッチ福音キリスト教会　　週報付録

MANNA マナ　2014年3月09日127号

【先週のメッセージより】　マタイ19:16-30

タイトル：「日本人宣教のチャレンジ」

★ 1500年代以来、日本には三度、福音宣教の大きな波が押し寄せてきたが、その三回とも拒絶を持って答え、その度に、キリスト教嫌いの体質が強くなっていったと言える。

★ 第一の波はイエズス会によってもたらされたカトリック教であった。ザビエルは「日本はもう間もなく福音化されるだろう」とローマに書き送ったが、時の権力者たちはキリスト教信仰が自らの権力基盤を揺るがすものと見なし、切支丹禁制と鎖国、五人組と国民がすべて檀家とならなければならない寺請制度をもって聖書の教えを退けた。この時から日本人は皆「名ばかりの仏教徒」になった。

★ 二度目の大波は黒船来航とともに始まった明治維新の時代、米国のプロテスタント諸教派のミッションによってもたらされた。これらのミッションにより多くの学校、病院等が立てられ、婦女子の権利なども保護されるようになったが、列強の植民地支配への恐れもあり、殖産興業、富国強兵が唱えられる中、教育勅語を通して、国民を統率するための原理として「国家神道」が徹底されるようになった。それを通し、日本人は今度はことごとく「氏子」すなわち神社の子となり、キリスト教信仰はまたも拒絶を受けたのである。

★ 第二次大戦直後、荒廃した日本に対して、マッカサー指令は日本にどんどん宣教師と聖書を送って欲しいと米国のミッションに訴えた。戦後日本にやってきた宣教師の８割が米国人であり、多くの人が福音の招きに答え、キリスト教のリバイバルが期待されたが、朝鮮戦争と特需、また復興の旗印のもと世の中はまっしぐらに物質主義に走っていった。会社という新しい宗教組織に属し、物質とこの世的な成功の偶像礼拝者となることで、キリストの福音は拒絶された。

★ 日本はまぎれも無く「神抜き」でやってきた国々の中で最優等生の一人であろう。しかし世界で最も裕福な国になったにも関わらず、人々の心には大きな穴があいている。金持ちが神の国に入るのはらくだが針の穴を通るより難しいが、「神にとって不可能なことはない」ことを覚え、忠実に福音を述べ伝えて行きたい！

【震災から三年】

2011年３月11日14時46分、仙台市の東方沖70キロの太平洋の海底を震源とした東北地方太平洋沖地震が発生した。マグニチュード9.0、地震そのものの被害に加え、巨大な津波が東北から関東の太平洋沿岸に押し寄せ、福島第一原発の被害を含め、多大な被害がもたらされた。震災による死者行方不明者は18,524人、建築物の全壊半壊は約40万件、復興庁によると2013年12月現在で避難者等の数はなお27万４千人おり、避難が長期化してきている。震災による直接的被害総額は16兆～25兆円であり、世界銀行推計で自然災害による経済損失としては史上１位とされている。… wikipedeia

震災から早三年経ちました。海外にいる私たちにとり、対岸の火事のように感じてしまうことを禁じ得ませんが、それでも敢えて心に刻みつけ、尚、困難の中にある方々のことを覚えていくことが求められているのではないでしょうか。そして何よりも大切なこと、すなわち、日本人が魂の救い主であるイエス様に心を開き、神の国に大挙して入ってくることができるよう執り成し、祈り続けましょう。主は「**地の果てのすべての者よ。わたしを仰ぎ見て救われよ。**」（イザヤ45:22）、「**島々よ。私に聞け。遠い国々の民よ。耳を傾けよ。**」（イザヤ49:01）と何千年も前から私たち日本人に命じておられます。そればかりか、「**主はすべての国々の目の前に、聖なる御腕を現した。地の果て果てもみな、私たちの神の救いを見る。**」（イザヤ52:10）、「**島々はわたしを待ち望み、わたしの腕に拠り頼む。**」（イザヤ51:5）と日本人の救いをも予告してくださっています。その日が力強く訪れるまで、私たちは希望と期待を失わず、尚、宣教に取り組んで行きましょう。

Pray for Japan